

まこと新聞

発行者
高島まこと
後援会長
明石 直大
亀山市辺法寺町
205
85-1744



12月度定例議会一般質問

ご挨拶

皆様、こんにちは、何時も元気一杯の高島まことです。私は、昨年12月31日近所の神社に1年間のお礼参りをしました。翌日の元旦には、この1年間無事にいきますようにと、同じ神社に足を運びました。元旦に神社で手を合わせる事が私の子供の頃からの習慣です。その時 頭の中が、スーと何とも言えない気持ちにさせられます。今年の干支は「午（うま）」私にとって飛躍の年です。去年は、防災、通学路の問題、教育行政、農林業の問題等ひとつ一つ解決してまいりました。今年も、昨年出来なかったことをもう一度よく観察し皆様のご意見に耳を傾け1馬力を100馬力いや1万馬力に全ての仕事を攻めてまいります。まだまだ未熟な私ですが、頑張っ て参りますので皆様、どうかよろしくお祈りします。

さて、今回のまこと新聞 第17号は、・・・
12月度定例議会一般質問 3項目 ～1. 通学路の整備について ～2. 鳥獣被害について ～3. 教育行政について を詳しくお伝えしたいと思います。



通学路の整備について

高島：前回も質問させて頂きましたが、通学路の観点は、安全が一番だと考えますが、教育長如何でしょうか？
教育長：保護者の方や学校関係者の方が、安全第一に設定して頂いています。
高島：通学路は、最短で安全に尚かつ快適に通学できるのが通学路だと思います。そこで通学路での要望件数と内容、又要望に対して改善した項目を一括して答弁お願いします。
答弁：今年度PTAから亀山市に対する要望、減速表示、通学安全灯の設置、道路の配水対策等28件、三重県に対する要望、歩道、ガードレールの設置、歩道橋の改修等29件、亀山警察に対する要望信号機、一時停止、横断歩道の設置等30件、合計87件で有り、関係各所に提案いたしました。早急に対策出来る案件は、市10件、県6件、警察3件です。内容はカーブミラー、安全灯の設置、樹木の剪定、区画線、横断歩道、一時停止の新設や塗り替え等です。
高島：案件87件の内改善できたのは、どれ位ですか？
答弁：改善された割合ですが、市10件36%、県6件21%、警察3件10%です。
高島：全ての案件が、100%改善されないことは、理解出来ますが、改善できない案件に対してどの様な策を講じているのかお答えください。
答弁：対策がなされない場合ですが、当該学校に対しまして、教職員や児童に注意喚起や指導等を行っています。
高島：次に安楽川左岸通学路舗装対策ですが、前回、国や県の絡みが有りますので舗装は出来ません。・・・との

回答がございました。しかしながら現実には、案件に対して、現場視察を行って要望書出したら終わり・・・又、この管轄は、建設部ですから教育委員会では有りません。そんな事ではだめです。その箇所が、県道でしたら、県に働きかけて市道認定してでも子供達が、安全に通行出来る環境に整備していくのが、教育長や教育委員会の責任で有って本当の仕事では無いですか？何時までもそんな事を言ってる様ですと前に進んで行かないと思いますが、教育長如何ですか？
教育長：高島議員御指摘の中部中学校通学路の件ですが、関係部署で現場確認を行い、その後河川管理者である三重県に対して改善要望書を提出しましたが、河川管理用ですので、舗装は予定していないとの回答が有りました。教育委員会として、中部中学校に対して当該箇所を通行する際充分注意して通行する様、注意勧告を提出致しました。日常管理に付きましては、関係部署と連携を図っている処です。
建設部長：河川管理者の三重県の話ですと先程、教育長の答弁と同じように河川管理用ですので舗装は行わないとの回答です。
高島：河川管理者の三重県がその様な回答されても、ここは通学路で有り、何より子供の安全を考えるならば、粘り強く交渉する必要があるのでは無いのでしょうか？如何ですか？
教育委員長：議員おっしゃる通りでございます。役所のシステムがございまして、難しい部分は有りますが、粘り強く推進していきたいと思っております。
高島：粘り強く、私も粘り強くいきます。市長は、この問題について、市道認定してまで今後どの様に取り組んでいくつもりかお聞かせ下さい。
市長：この案件ですが、認識はしております。教育委員

会から、建設部を通じ県の方に要望を出していますが、先程申し上げた内容でございます。今後、市としても県に対して粘り強く要望を出して行く予定です。

高島：野登小学校区歩道の草刈りですが、しっかりしていただいています。6月7月子供の背丈位伸びてきて、大変危ない、反対に夏休みに入ると歩道は利用しない、草刈りのタイミングが有りまして、現在どの様な管理をしているのかお聞きしたい。

答弁：草刈りの時期ですが、地域の実情に合わせて行っているとの回答です。

高島：実情に合わせて今後よろしくお願ひします。次に前回質問させていただいた、亀山ゴルフから、下ってくる県道の案件ですが、前回注意喚起と看板設置しますと回答有りましたが、全然手付かずの状態です。一体何時施工するのかお答えください。

答弁：亀田小川線の案件ですが、今年度中に注意喚起や看板の設置を予定しています。

鳥獣被害について

高島：次に 近年、鳥獣被害が全国で年間200億円程発生しているとの論文が出ています。その中で亀山市に於いて、一体農業と林業でどれだけ被害が出ているか答弁お願いします。

答弁：農作物に於きましては、シカ、イノシシによる水稻被害、サルによる果実や野菜に対する被害が出ています。農業関係者の皆様に、聞き取り調査の結果22年度430万円、23年度540万円、24年度470万円です。一方、森林被害に於きましては、22年度440万円、23年度4

50万円、24年度480万円との報告が有りますが、実際の被害額はこの金額を上回っていると考えます。

高島：農業、林業合わせて年々1000万円以上発生しているとお聞きしました。人的被害として、通学路にイノシシが出る。部局として、この金額は多いのか少ないのか？一体どの様な認識されているのかお聞きします。

答弁：今を取り巻く農林業の担い手や、捕獲を担っています猟友会の高齢化や減少等で鳥獣被害が年々増加しているのが現状で被害が多いと認識しています。

高島：被害が多いと認識されているようです。例えば、シカですが、2年目から繁殖能力を持ち子供を産んで、どんどん個体数が増え、被害額も増大します。鳥獣駆除の対策として、前年度の実績と来年度の予算額をお答えください。

答弁：24年度決算ですが、鳥獣委託料や、対策費で約1765万円の実績でございます。又来年度の予算ですが、国からの補助金を基に検討していきたいと考えます。

高島：対策費が、1700万円、被害額が1000万円合計2700万円の莫大なお金が発生しています。行政として今後どうすればいいのか考えなければ成らない。駆除したからと云って一頭あたり〇〇円支払います・・・この様な方法では、進歩がない。捕獲した人にも益が出て、亀山市としても、利用する手立てをを考えていかななくてはならないと思います。例えは、シカ肉は食べて解決しています、ココ一番と云うカレー店では、駆除したシカ肉を利用して販売しています。行政として今後どの様に考えているのかお答えください。

答弁：今後の対策として、イノシシ、シカ肉を利用した事業として広域的に考えていきたいと思ひます。

教育行政について

高島：次に、教育委員会自ら教育的視点から点検評価を行いその教育的効果について検証すると共に地域住民に対する説明責任を果たしその活動を充実させていくことが求められる。各教育委員会は、毎年教育行政の事務管理及び執行状況について点検及び評価を行いその結果に関する報告書を議会に提出すると共に公表する事が規定された。その中で教育委員会は、前項の点検評価を行うにあたっては、教育に関する学識有識者の知見を有するものであると有りますが、何処に有るのか教えてください。

答弁：教育委員会に於きましては、毎年8月定例議会にて施策及び事務事業評価シート等に教育委員会事務及び点検評価に於きまして評価を行っています。市の施策評価の中で施策評価及び事務事業評価を行い市議会に提出すると共に市のホームページにて公表しています。

高島：成果報告書は、全く違うものでその中で教育委員会は、独立した組織が有る。法律の都合の良いように、皆さんは、解釈しているので有るのでは、無いでしょうか？

答弁：教育委員会活動評価についてですが市の行政評価の中で外部評価委員に依る評価を採用し、市議会に提出、公表しています。

高島：通学路とこの評価システムの案件は、次回もっと深く掘り下げて質問します。次

に教育長にお聞きします。教育を巡る問題は、益々複雑化、多様化しています。

子供達の置かれる状況は、日に日に変化しています。子供達の学力、体力 社会性批判意識に課題が見られ、その背景として家庭や地域の協力が低下しているように思ひます。そこで教育委員会は、亀山市の教育を巡る課題をどの様に評価されているかお答えください。

教育長：学校に於けるいじめや体罰など依然として社会問題となっています。また、最近では土曜授業のあり方について、積極的に議論されている状況です。亀山市と致しましては、学校教育、教員研究、生涯学習等、各教育現場に於きまして、様々な課題が有ると認識しています。教育委員会始め学校、家庭や地域も含めた社会全体が一体と成った取り組みが、今後益々重要だと考えています。その先々で課題と成る部分に付きましては、速やか且つ適切に対応していく所存です。

高島：次に教育委員長にお伺ひします。教育委員会での教育委員会活動の評価は、どの様な議論を行われて、どの様な結論に達していくのかお聞きしたい。

教育委員会委員長：国や県の動向や施策を見極めまして、教育委員会に於きましては、各種施策の整合性を図りつつ、亀山市学校教育ビジョン及び亀山市生涯学習等の施策を確実に推進しているところです。

高島：答弁頂きましたが、それは現状報告であり評価では、無いと思ひます。次回もう一度同じ事を質問させて頂きます。もっともっと教育長がリーダーシップをとって推進していかなければいけないと思ひます。